

平成27年第10回 沼津市教育委員会定例会会議録

1 日 時 平成27年10月28日（水）午後3時00分～午後4時10分

2 場 所 沼津市立看護専門学校 1階 会議室

3 日 程

(1) 会議録署名人の指名（三好委員 川口委員）

(2) 前回会議録の承認（細沼委員 三好委員）

(3) 議 案

なし

(4) 協 議

なし

(5) 報 告

1) 9月市議会定例会一般質問等について

(6) その他

なし

4 出席者等

委員長 細沼早希子、委員長職務代理者 三好勝晴、委員 土屋葉子、委員 川口浩史、
教育長 工藤達朗、教育次長 井原正利、市立沼津高等学校校長兼中部校長 川口孝博、
教育指導監兼学校教育課長 大川淳、教育企画室長 真野正実、学校管理課長 山本貴史、
教職員研修センター所長 望月まゆみ、文化振興課長兼戸田造船郷土資料博物館長 勝又恵三、
青少年教育センター所長 相磯幸代、少年自然の家 石井学 市立沼津高等学校事務長 杉山善英、
図書館長 杉山一男、図書館事務長 芹沢美恵子、生涯学習課長補佐 後藤要、
スポーツ振興課長補佐 山岡慶博、調整担当 新井寿明、教育企画室主事 石渡輔、
教育企画室主事 和泉百映、

5 会 議

細沼委員長が、午後3時00分開会を宣言する。

細沼委員長より会議を公開とすることを委員に諮り、了承される。

傍聴人1人。

細沼委員長より、会議録署名人に三好委員、川口委員を指名する。

6 教育長報告

こんにちは。

今回は第10回ですが、新しい教育委員長、職務代理者、川口教育委員が入り、第1回目のような会議と感じております。

看護学校で会議を開催するのは初めてです。また、この後の文化財センターの視察も初めてとなります。文化財センターは高尾山古墳関係の墳丘の展示や資料がありますので見ていただきたいと思います。

先週、青森へ出張に行きました。朝の気温が3度でとても寒く、やはり本土の一番北だと感じました。青森市の担当者に今の話題を聞いたところ、街中の空洞化が心配だとの話でした。29万人の市であるが、町の中が寂れていき、土地や駐車場が広い

郊外に大型店ができ、街の空洞化が心配だとのことでした。そして、言葉です。青森の方と話をしたり、子どもたちが話をしている言葉を聞いても、みな殆ど標準語で話をし、訛りを聞きたいと思っても聞くことができず、東北に来たというイメージがあまりできませんでした。日本はみなどこも同じになってきたという印象を持ちました。青森の教育長の話では、街の中で雪が1メートル積もる人口29万の都市は世界で青森だけとおっしゃっていました。日本はいろんな意味で、どこも同じような課題を抱えていると思いました。教育の問題も、沼津も青森も殆ど同じような問題を抱えていると感じました。

次に、現在予算について市長や財務部長等と話していますが、改めて総合教育会議の重要性を感じました。9月の総合教育会議でも多くの課題を出していただきました。特に、教育委員のみなさんには、学校訪問して見ていただいた特別支援を要する児童の大変さを話題としていただきました。そのようなことを多少は配慮していただける雰囲気があります。また、市長からは沼津は英語ができる街にしたいという話がありましたが、教育委員会の学校教育課や生涯学習課等で、英語をどのように子どもたちや大人や、保護者に広めて行ったら良いか施策をいろいろ考えて市長にも説明をしました。市長も、これは自分が言い出したことだと言って聞いてくれました。今後、教育委員のみなさんには、多くのことを見ていただき、このようにしたらよくなるのではないかなどの意見を、総合教育会議でお話していただくことは、教育の向上につながると思いますので、総合教育会議の重要性を改めて認識したものです。

<報告>

1) 9月市議会定例会一般質問等について

(教育次長 資料に基づき説明)

細沼委員長 説明が終わったが、本件に対するご質問、ご意見等はいかがか。

土屋委員 渡邊博夫議員の質問の答えに、郷土愛があるが、総合教育会議でも話題になり、市長と話をするときに、郷土愛を育て沼津を出て行ってしまった若者たちがまた沼津に戻ってきたいと思えるような沼津にしたいと話をしたが、その中で、郷土読本沼津を用いた授業を行っているとあるが、「郷土読本沼津」がどのようなものか見せていただき、それを子どもたちの授業でどのようなかたちで使っているか、小学生なのか中学生なのか、全体なのかご説明いただければと思う。

学校教育課長 小学生用と中学生用がそれぞれあり、5年に1回くらいの割合で部分改訂しながら、常に新しい写真やデータを載せてあり、主に、社会科の授業や総合的な学習の時間など、地域について学ぶときなどに活用する。

教職員研修センター所長 小学校は3年生と5年生の社会の学習で、自分たちの住んでいる町の学習があり、教科書だと全国区となるためそぐわないところもある。このため、その際には、「郷土読本沼津」を教科書代わりに使用することがある。

教育長 次回の時に、小学校版、中学校版をお持ちするので、ぜひ見ていただきたい。これは、沼津の先生方、校長先生が中心となって作っているので、非常にわかりやすく字も大きいし、ぜひ見ていただきたいと思う。

- 土屋委員 限られた学年だけでなく、継続してずっと思い出して何回も子どもたちに学習の場で見ただけの形が良いと思うので、よろしくお願ひしたい。
- 三好委員 具体的に、どういう時間帯で、児童は学習するのか。特別に郷土愛の時間等があり使用するのか。道徳の時間等で使用するのか。
- 学校教育課長 たとえば、小学校だと地域の偉人などを社会科で学ぶ時間があるので、そこで使用する。教科書は全国で使用するため、全国のどこかの地域をモデルに使っているが、それでは子どもたちには身近ではないため、地域を知ろうという具体的な教材として「郷土読本沼津」を毎時間社会科で使用している。
- 中学生になると、地域の学習に時間をかけることが少なくなるため、使用頻度は低くなるが、地方自治の中で地域のデータを使用するなど、社会科の時間での使用が多い。
- 教育長 この、「郷土読本沼津」は歴史的にはとても長い。
- 川口委員 息子が、小学校3年生であり、最近みかん工場やお茶工場へ見学に行くことがある。地域の名産品を知るために、郷土読本沼津の教育の一環で行っているのか。
- 学校教育課長 沼津市内どの学校も社会科見学があり、小学4年生でお茶工場やみかんの青果場へ行く、泉水源地に行くなど、沼津の主要な産業を見学する授業を社会科で行う。
- 川口委員 新茶をいただきとても喜んでおり、体験を通して学んだことは印象深く残るようであり、とても良いと感じた。
- 三好委員 小中学校の対外試合等で東海大会や全国大会へ行くことの補助金について、今年、第5中学校が全国大会へ行くことがとても多かった。昨年あたりから、全国大会へ行くことが多くなり、全国大会へ行くには、とてもお金がかかることを聞いている。もちろん学校や、部活に参加している保護者、父兄が相当の負担をし、活動費に充てている。全国大会になると、バスを借りるなどかなりの金額がかかり、今年は多くの部活が全国大会に出場しており、PTAを通して資金は大変であったため、第5地域に諮り連合自治会が動いて、各家庭で200円ずつお願ひしたいと全家庭に回覧があった。その下に付帯決議が書かれていたが、その内容がとても残念であった。今年のように強く全国大会に多く行き、これだけお金がかかることが毎年とは限らないため、教育委員会として毎年同じような金額での予算立てをすることは難しいと思うが、実際にいくらの補助金となっているのか。
- 学校教育課長 団体が全国大会に出場すると1チーム10万円。年間、上半期と年度末の2回に分け、夏までの大会は10月頃、それ以降の大会の出場については、2月頃、補助金の支払いを行う。
- 三好委員 今回のように全国大会への出場が重なった場合への10万円の支払いでは焼け石に水である。全てを市が負担できるかとなると、それは難しいと理解している。このようなことに対して地域任せになることが、仕方がないのかもしれないが、何かしらの方法と手立てがあればと感じる。今回の現状を聞いていると思うが、今回は第5地区であったが、今後は他の地区であるかもしれない。教育委員会としての何かしらの対応があると良いと感じる。今以上の補助金を出してもらいたい気持ちがある。今すぐに対応をすることは難しくても、今後も想定できることで

あるため、沼津市を背負って出場しているので応援してあげたい思いがあるので、教育委員会としてももう少し検討して欲しいと思う。

学校教育課長 実際には、中学校により別々の事情がある。全国大会に出場する学校もあれば、県大会に大勢が出場する学校もある。学校によっては、県大会はチームが1万円、個人が1千円であるため、全国大会には行けないが、県大会に大勢出場するので、こちらを高くして欲しいという学校もある。各学校がそれぞれの事情を抱えているので、まずは、中学の校長会で一度検討をしてほしいとお願いしている。

三好委員 県大会レベルと全国大会レベルでは、全く違うと思う。そこに、差があることは当然であるため、それはそれでいいと思う。県大会を軽んじて、全国大会を重んじるというわけではないので、バランスの判断は難しいところであると思う。

学校教育課長 今後も、研究していきたいと思う。

細沼委員長 部活動の位置づけは、学校行事ではないのか。部活動は、市として推進しているものか。

学校教育課長 課外活動となる。

教育長 もちろん、学校教育にとっては授業は大事であるが、バランスよく育てるという意味では部活動は大きな意味があるものである。

細沼委員長 推進をして保護者への負担が過重になるのでは大変なので、良く研究していただきたいと思う。

三好委員 原議員の若者の出会い応援事業について、勤労青少年ホームの活動が非常に盛んであった時代は、ここで出会いがあり実際に結婚まで結びついたということも昔はあったと聞いている。現在は、勤労青少年ホームがそのような場所となっておらず、そのような場として若者が使っていない現状があり、この場所がなくなったら、このようなことをどのように構築していくかの考え等はあるのか。

教育次長 勤労青少年ホームは、教育委員会の所管施設ではなく、市長部局から事務委任を受けて教育委員会が事務を行っており、産業振興部の所管の施設となる。実態的に生涯学習課が行っている講座等が中心になったため、教育委員会の事務となったのかもしれない。もとは、勤労青少年が出会いや仕事以外の活動の場として使用する福祉や、労政としてできた施設である。利用の低下もあるが、建物の老朽化と耐震性がないこと、香陵公園整備事業の一部としても、その位置づけが課題となっている。

市長の考えで、出会いの場を、ひとつの固定した場所を考えているのではない。昔は、出会いの場を食事等をして引き合わせるなどが一般的であったが、これでは効果がないので、何かをやることを目的として興味のある方が集まってくる方が、成立する割合が高いので、そのような展開になっている。場が必要であるということになっても、今は公共であえて作るということはない。場が必要であるとなれば、今ある施設を利用し、今あるような勤労青少年ホームのような形のものをあえて作るという考え方はないと思う。

三好委員 おそらく行政が実施するには限界があるのかもしれないが、他市ではそのような取り組みをしているところもあると聞いている。

教育長 婚活は、市で委員会を作っており、人口増加につながるため市長も熱心であり

いろいろな形で婚活を行っている。教育委員会が直接行っているということはないが、政策企画課がやっている。

三好委員 成果はどうか。考え方の問題ではあるが、今後沼津市も積極的にそういう場を設けることが良いと思う。

教育長 成果は不明であるが、非常に熱心に行っている。

細沼委員長 婚活を行うときは、広報ぬまづに掲載されているのを見ることがある。

教育長 婚活等いろいろなイベントを行う時は、広報ぬまづに掲載している。

細沼委員長 その他ないようなので、本件は報告を受けたということでご了承願う。

<その他>

図書館事務長 9月26日に開催した、「ビブリオバトル中高生大会in沼津2015」の結果について報告をしたい。

これは、自分のおすすめの本の魅力について観戦者の前で5分間で語り、その後その本について観戦者みなさんで3分間でディスカッションし、最後にどの本が一番読みたくなったかと投票を行い、チャンプ本を決める指標ゲームである。高校生11名、中学生7名の計18名が発表者として参加し、来場者も90名ほど来て、3グループに分けて行った。その結果、沼津商業高等学校、桐陽高校、沼津第五中学校の生徒3名が推薦した本がチャンプ本となっている。現在、図書館のヤングアダルトコーナーにその本を置いているが、見る限りいつも貸出し中の状況である。参加された生徒の中には、ビブリオバトルが初めての方もいたため、非常に緊張したが楽しかった、うまく観客の皆さんに説明ができなかったのでまたリベンジしたいなどの声があった。この大会の様子はケーブルテレビで放映された。

図書館として、本を通じて自分の意見を主張し、コミュニケーションをとることは非常に大切と感じている。来年も対象者等は変更するかもしれないが、図書館として引き続きこの事業を続けていきたいと考えている。

細沼委員長 報告があったが、本件に対するご質問、ご意見等はいかがか。

細沼委員長 一位になった本の紹介をしてほしい。

図書館事務長 3人おり、「もらい泣き」「踊る男」「やはり俺の青春ラブコメは間違っている」の3冊がチャンプ本となっている。

教育長 私も、ずっと聞いていたがとても良いと感じた。高校生が多かったが、中学生も1人チャンプになったが、学年はあまり関係なく高校生も中学生も混ざっても何も問題がないと感じた。非常に良いのは、自分が好きな本を、決められた時間内にいかに相手に伝えるかということであるため、読んで理解をし、それを相手に分かりやすいように理解してもらえるように説明するということが非常に難しい。この能力というものは、これからの子どもたちが、大人になっても必要な能力であると思う。このビブリオバトルは思った以上に良いので、今後広がれば良いと感じた。決められた時間の中で、相手に理解できるように説明することは、とても難しいことであるが、中学生もとても上手であった。

三好委員 プレゼンテーションと同じである。諸外国であると、小学生の授業の中でプレゼンテーションをやっている。これらから、自分の思いを相手に伝えることを

わかりやすく伝えることを学ぶため、このようなスタイルはとても良いと思う。

教育長 沼津は言語教育を行っているが、能力として読解力がとても必要であり、まさに読解力そのものであるため、ぜひ図書館には、来年も頑張ってもらい、これから沼津がビブリオバトルの街と言われるようになったら素晴らしいと思う。市長も来て、ずっと聞いていた。

18人の子どもたちが紹介した本に、私の知っている本は殆どなかった。

細沼委員長 その他なにかあるか。特にないようなので、以上をもって本日の定例会を終了する。

午後4時10分 閉会。